

令和2年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	壮志会		
事 業 名	政策議会研修 テーマ 「いま」改めて考える政策議会：議会をどう変え、どう伝えるか		
事 業 区 分	①研究研修	②調 査	

1 上田市での課題と研修・調査の目的

地方議会総合研究所が主催する政策議会について受講するとともに、コロナ禍においても研修活動を維持するためにオンラインを活用し実施した、

2 実施概要

実施日時	主 催	(株)地方議会総合研究所
令和3年3月30日(火) 午前10:00~午後1:00	会 場	上田市役所本庁舎5階委員会室 (Zoom研修)

報告内容(感想、市政に活かせること)

1 講義 午前 10:00 から 13:00

題名 「いま」改めて考える政策議会：議会をどう変え、どう伝えるか

講師 龍谷大学政策学部教授 土山希美枝 ツチヤマ キミエ

2 講義の内容

(1) 議会と改革の現在系

- ・問題提起 ①心が折れる議会報告会はなぜか？
②もりあがらない議員間討議はなぜか？

現実

- ・地方議会

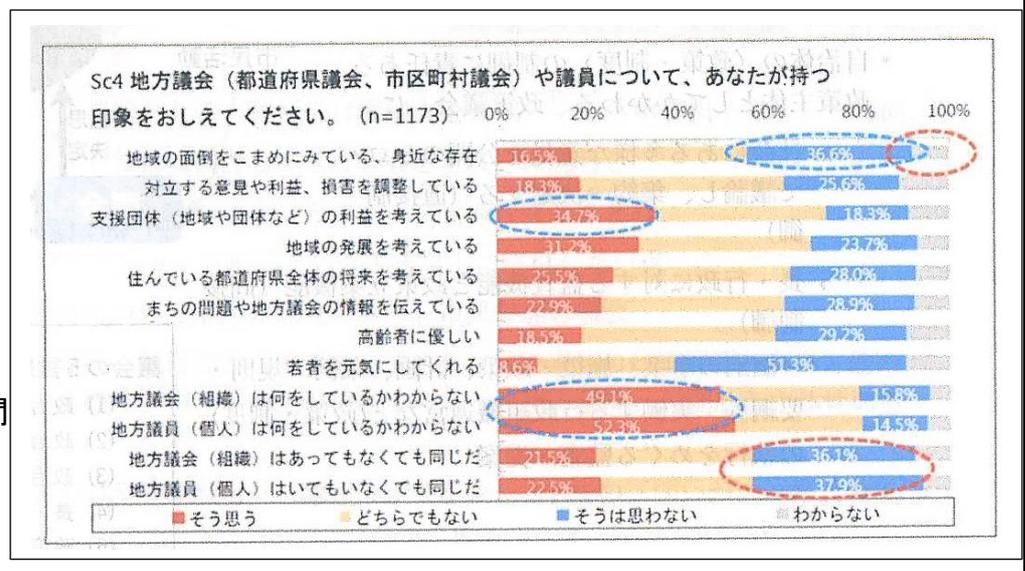
何をしているか
分からない 49.1%

- ・地方議員

何をしているか
分からない 52.3%

実情

※市民と議会の間
にあるもの
=無理解



(2) 「市民にとって議会とは なにものか」

1) そもそも自治体は なんのために？

「市民が必要不可欠とする〈政策・制度〉を整備するための機構」

- ・自治体の政策・制度の個別事業とその集合、実行計画、組織、条例、規則等
- ・自治体の目標は、〈政策・制度〉を「より良く整備すること」
- ・そのために議会と長は異なる種類の権限が与えられている
- ・市民の信託は、理念や空想ではない〈政策・制度〉という実態を持つ成果物にある

2) 〈政策・制度〉を「より良く整備する」ための「正解」はない

- ・何が「必要不可欠」なのか？⇒課題は無限 資源は有限
- ・「効果の高い政策」=現在から求める未来のあるべき姿に至る手段⇒未来のことは不可知
- ・（不可知のなかで）「決断」の重要性⇒その最終的権限は議会にある

3) 自治体の〈政策・制度〉はどのように制御されているか⇒設計（計画）と実態（結果）

- ・自治体の〈政策・制度〉の制御に責任のある政策主体としての議会⇒**政策議会**
- ・直接制御＝多様な意見を公開の場で議論⇒集約⇒決定＝議会の場
- ・間接制御＝議会の監査機能・政策立案機能
＝個別の事業、政策や施策、計画や条例等行政組織の執行状況監査⇒提言

(3) 「議会とはなにものか」をどう伝えるか

1) 説明責任 ・議会報告会（内容報告）

- ・意見聴取・交換（不特定テーマ）
- ・意見聴取・交換（特定テーマ）

2) 意見聴取・交換 ・市民提案（請願・陳情含む）

- ・情報共有（議会から市民へ）
- ・情報共有（市民から議会へ）

3) パブリック リレーションズ **理解と共感の獲得**

(4) 広報と議員・議会の関係の整理

1) 議会と市民の関係の再構築

- ・市民と共有する議会の資源⇒市民と議会を結ぶもの＝「争点」一般質問等
- ・議会にとって「争点」は重要⇒伝えるべき成果はなにか
- ・議員の魅力を議会の魅力とつなげる（鷹栖町の中吊り広告風議会報）

(5) 広聴から市民参加へ

- ・問題提起 「議会報告会」はなぜ「もりあがらない」か、なぜ「つらい」か？
「市民との対話の機会」は何のため、誰のため？

1) 話し合いの事例

- ・岐阜県御嵩町「議会住民懇談会」
- ・沖縄式地域円卓会議

- ・ワールドカフェ（別添）
- ・知立市議会「市民と議員の研修会」
- ・総社市議会「市民フォーラム」
- ・飯田市議会「課題共有型円卓会議7」

2) コロナ禍と広報公聴

- ・集合して対面で話し合うことが出来ない状況」への対方の必要性
IT/ICT は対面と完全互換は出来ないが、一部機能の代替が出来る
IT/ICT だから出来ることもある。（上田市議会の昨年の取組）

3 まとめ 今後活かせること

今回改めて基本に戻り、議会のあり方を自治体とは何かから学び直した。「自治体は、市民が必要不可欠とする、政策や制度を整備するための機構である。」から始まった。では、必要不可欠とはなにか。その課題は無限にあり、そのための資源は有限である。そのなかから制作や制度を決める。この決定には二元代表制の中で議会には最終責任があり、そのためには決定に当たり多様な意見を集約し、その執行を監視・監査する。また、議会自ら政策立案・提言する機能があり、これらのために広報公聴活動が議会活動の基本にあり、多様な先進例も紹介された。上田市議会の広報公聴活動は先進性はあるが、市民との距離感、課題への共感や共有感に課題があると感じている。今後の会派活動の中で、目指すべき上田市政の議論を深め、民意を把握し集約し、市民と共有し共感し得る広報公聴活動のあり方について、一層研究を深め、実施する必要を感じた。

また、先進例として紹介のあった鷹栖町議会一般質問の質問者と質問内容を週刊誌の中吊り広告風にアレンジした事前配布の新聞折込や傍聴者が採点する「通信簿」の発想に学ぶべき着眼点があった。

【リモート研修の様子】



【講師：土山希美枝氏】



* 視察先の写真等がある場合は添付のこと